

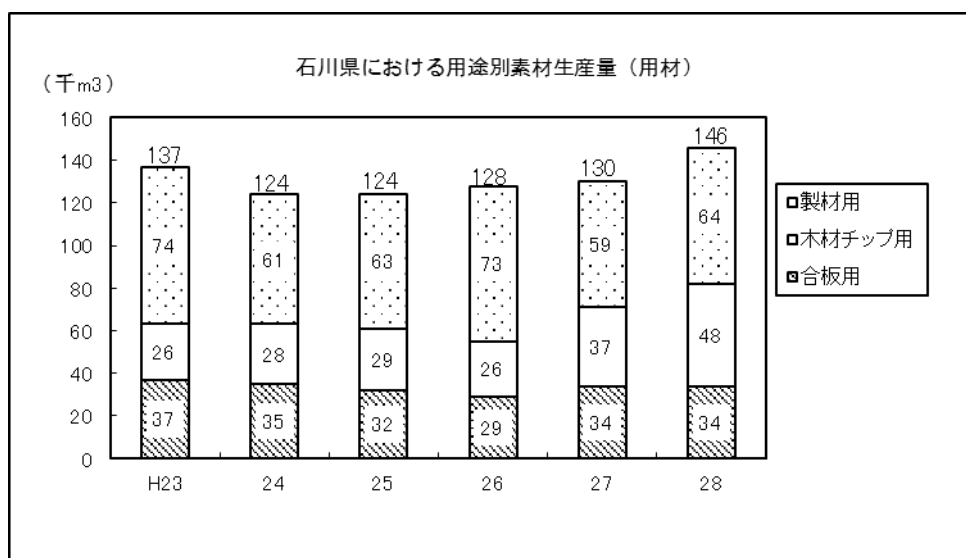
# I 石川県における木材の加工流通の概要

## 1 木材需給の現況

### (1) 素材(丸太)

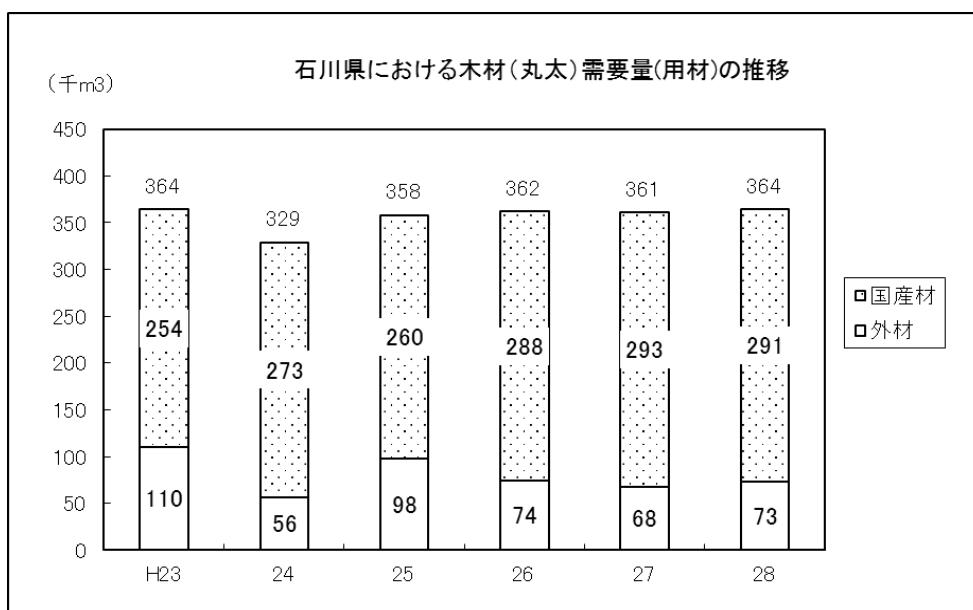
#### ○ 素材生産量は増加 (Ⅱ-2表)

平成28年次の県内素材生産量は146千 $m^3$ (対前年112.3%)であった。用途別では、製材用が64千 $m^3$ (対前年108.5%)、合板用が34千 $m^3$ (対前年100.0%)、チップ用が48千 $m^3$ (対前年129.7%)となった。



#### ○ 木材需要量は微増 (Ⅱ-8表)

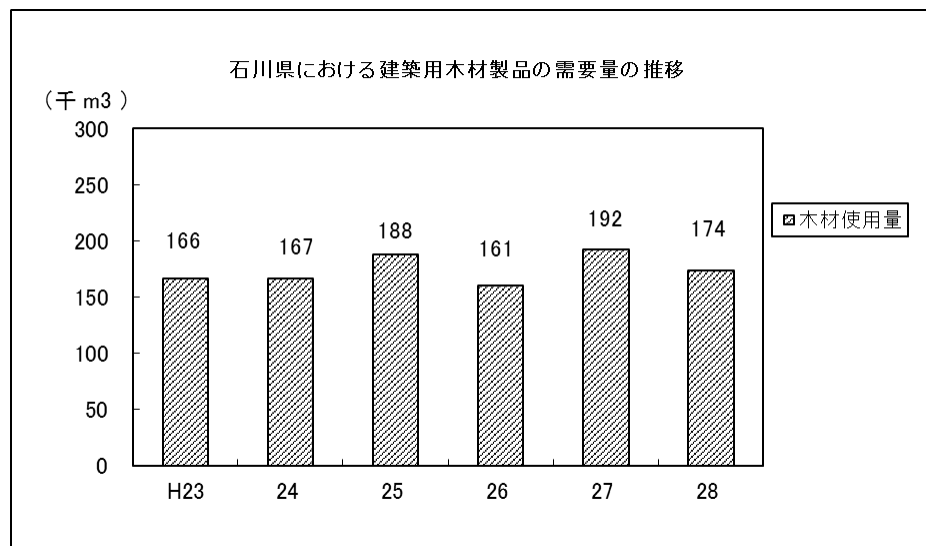
平成28年次の県内木材(丸太)需要量は364千 $m^3$ (対前年100.8%)となった。内訳は、国産材が291千 $m^3$ (対前年99.3%)、外材が73千 $m^3$ (対前年107.4%)であり、国産材の割合は、79.9%(対前年1.3ポイント減)となった。



## (2) 製品

### ○ 建築用木材製品の需要量が減少 (VI-3 表)

平成 28 年次の県内建築物着工床面積は木造 678 千  $m^2$  (対前年比 96.7%)、非木造 661 千  $m^2$  (対前年比 78.3%) であったことから、建築用木材製品の需要量 (推計) は 174 千  $m^3$  (対前年 90.6%) となった。



【推計方法】 木造：着工床面積 ( $m^2$ )  $\times$  0.180 ( $m^3/m^2$ )

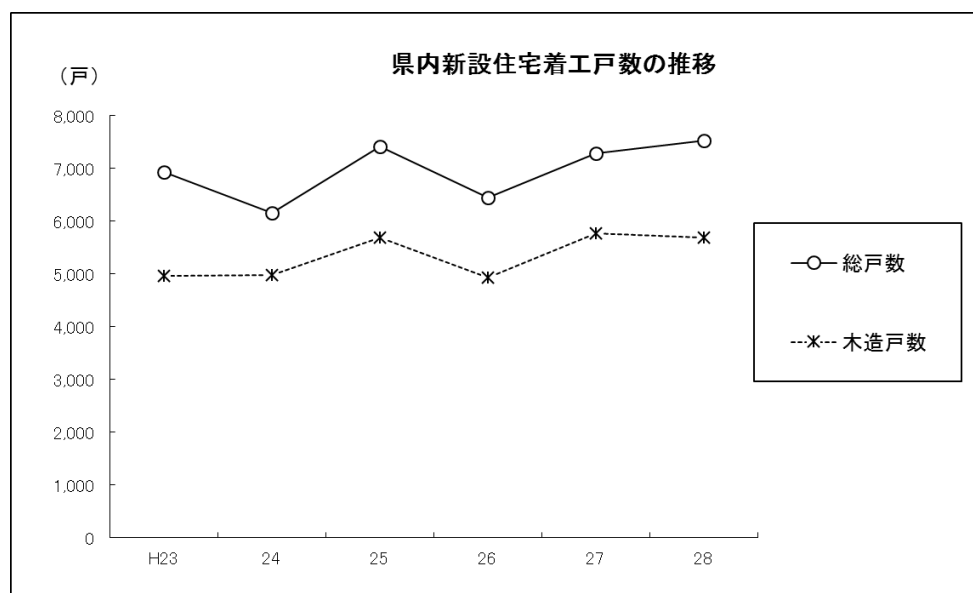
非木造：着工床面積 ( $m^2$ )  $\times$  0.078 ( $m^3/m^2$ )

## (3) 新設住宅着工戸数の推移

### ○ 新設住宅着工戸数は増加、木造戸数は減少 (VI-1 表)

平成 28 年次の県内新設住宅着工数 7,524 戸 (対前年 103.3%) のうち木造住宅は 5,693 戸 (対前年 98.8%) となった。新設住宅着工数の木造率は 75.7% (対前年 3.4 ポイント減) であった。

着工新設住宅の総床面積は 733 千  $m^2$  (対前年 98.9%) で、1 戸当たりの平均床面積は 97.4  $m^2$  (対前年 95.8%) であった。



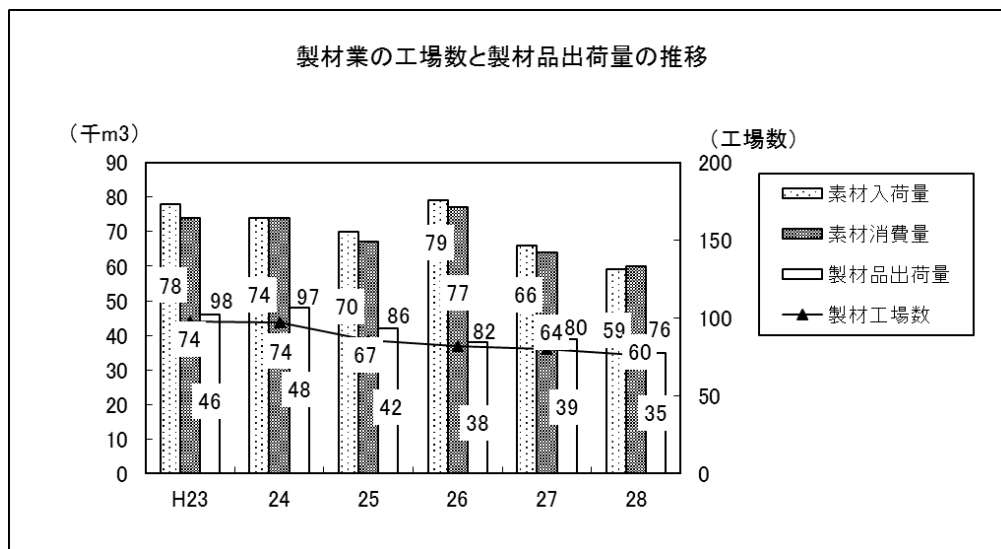
## 2 木材加工業の現状

### (1) 製材業

#### ○ 工場数が減少 (Ⅲ-2表)

平成28年次の県内製材工場数は76工場(対前年4工場減)、従業者数は228人(対前年2人減)となり、素材消費量は60千m<sup>3</sup>(対前年93.8%)であった。

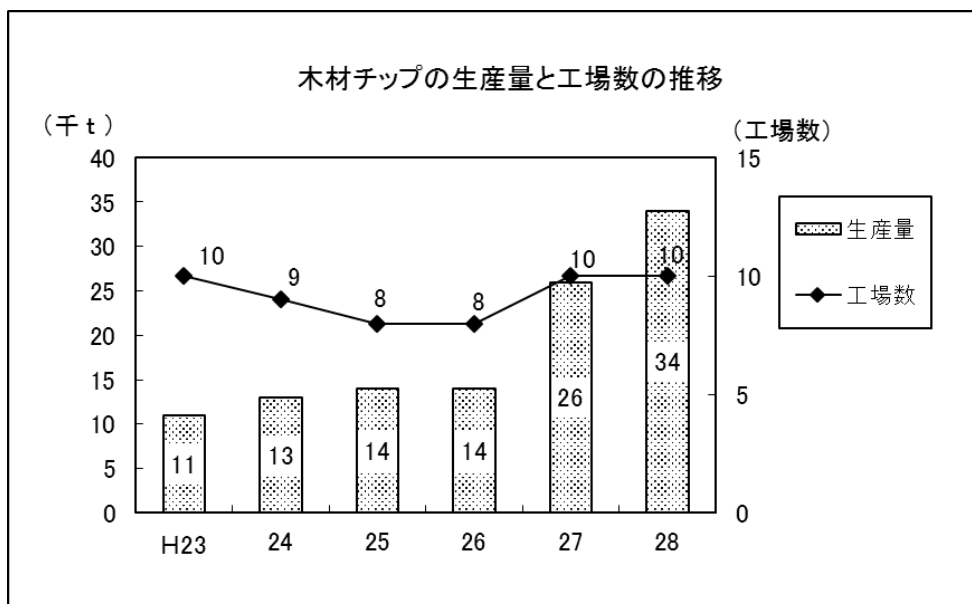
また、動力の総出力数は、6,538kW(前年比102.3%)であり、1工場当たりの平均出力数は86.0kWであった。



### (2) 木材チップ工業

#### ○ 生産量は増加 (Ⅲ-6表)

平成28年次の県内木材チップ生産量は、34千t(対前年130.8%)となった。原材料入手区分別では、工場残材が3千t(対前年37.5%)、林地残材が12千t、素材が18千t(対前年200.0%)となった。工場数は10工場(対前年同数)であった。



※合板加工業については、1社のみであるため記載を省略

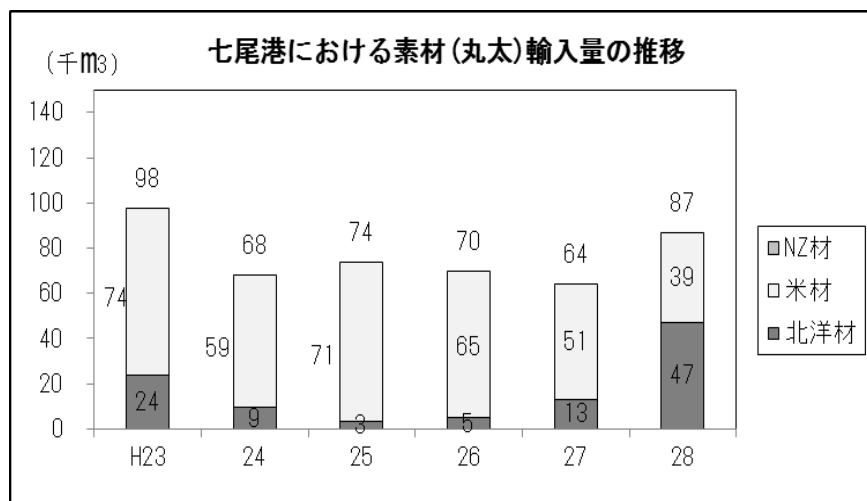
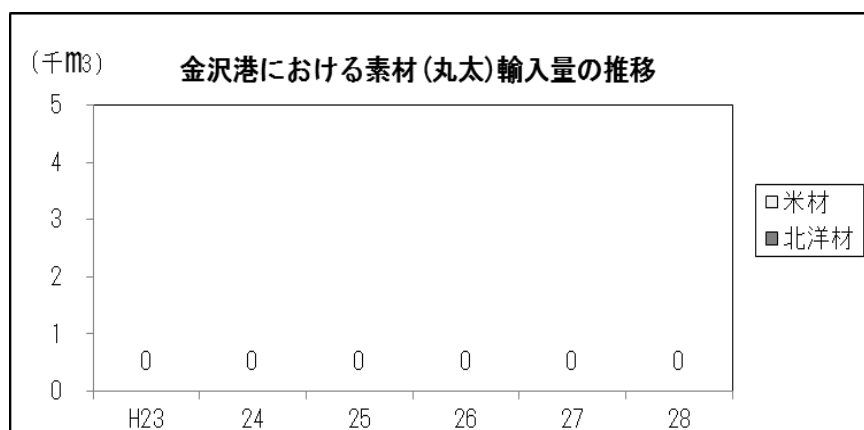
### 3 木材輸入の動向

#### (1) 素材(丸太)

##### ○ 輸入量が増加 (IV-1・2表)

平成28年次の県内素材(丸太)輸入総量は86,552m<sup>3</sup>(対前年135.7%)で、そのすべてが七尾湾への陸上げであった。内訳は、北洋材が47,283m<sup>3</sup>(対前年362.5%)、米材が39,269m<sup>3</sup>(対前年77.4%)であった。

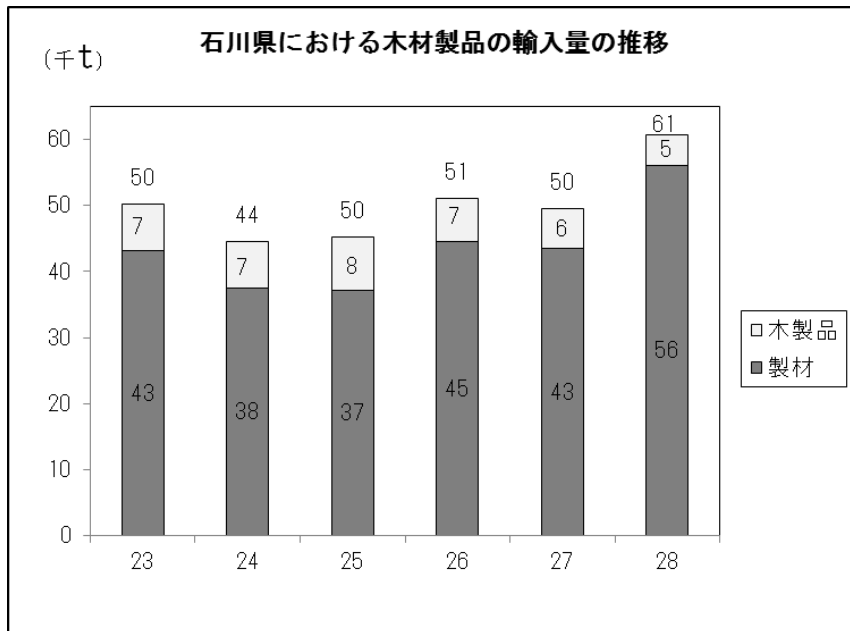
北洋材の内訳をみると、カラマツが38,928m<sup>3</sup>(構成比298.4%)であった。



#### (2) 製品 (IV-3・4表)

平成28年次の県内木材製品の輸入総量は60,735t(対前年比122.6%)で、その内訳は製材が56,039t(対前年比129.0%)、木製品が4,696t(対前年比76.8%)であった。

注：木製品は、合板、集成材、建具等を指す。

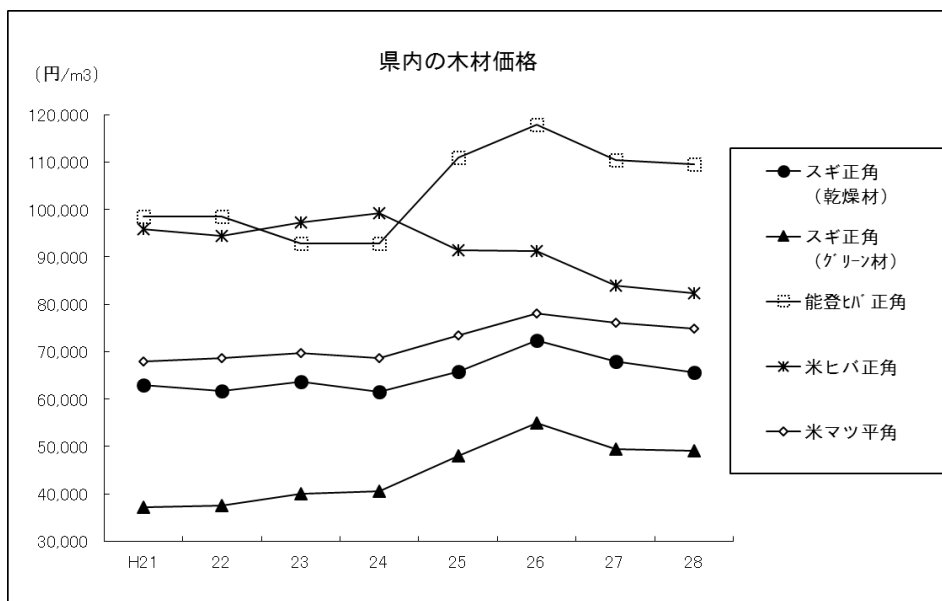


#### 4 木材価格の動向

##### (1) 製品

##### ○ 製品価格が下落 (V-2表1)

平成28年次の県内の木材製品価格は、スギ正角(乾燥材) 65,700円/m<sup>3</sup>(対前年2,200円安)、スギ正角(グリーン材) 49,100円/m<sup>3</sup>(対前年400円安)、スギ正割 61,000円/m<sup>3</sup>(対前年3,100円安)、能登ヒバ正角 109,500円/m<sup>3</sup>(対前年900円安)となり、ベイヒバ正角 82,300円/m<sup>3</sup>(対前年1,700円安)、ベイマツ平角 74,900円/m<sup>3</sup>(対前年1,200円安)となった。



平成19年5月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

注：スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材に分けて調査開始。

(2) 素材(丸太)

○ 原木価格スギが下落、能登ヒバは上昇 (V-2表2)

平成 28 年次の県内の素材価格は、スギ 10,600 円/m<sup>3</sup>(対前年 300 円安)、能登ヒバ 17,700 円/m<sup>3</sup> (対前年 800 円高)、北洋カラマツは 24,800 円/m<sup>3</sup>(対前年同)、ベイマツ 29,500 円/m<sup>3</sup>(対前年 700 円安)となった。

